

JUDI 関東ブロック

ブロック幹事

三輪 強 Tsuyoshi Miwa 横山公一 Kouichi Yokoyama
一木 誠 Makoto Ichiki 大沢昌玄 Masaharu Oosawa

ブロックメンバー（2014年6月1日現在）

正会員 113名、準会員 [一般] 3名、準会員 [学生] 63名、特別会員 8名（計 187名）

■ブロックの置かれた地域特性、課題など

関東ブロックは、大東京を抱える一方で、1都6県+山梨県、長野県まで含むから、城下町、武家屋敷、平家の落人村、鎌倉時代以降の寺社により形成された門前町、江戸時代を中心とする宿場町、商人まち、蔵の街、大名屋敷跡などの庭園や迎賓館、関東大震災後の煉瓦街、第2次大戦後の団地、ニュータウン、文化住宅、そして近年における学園都市、工業団地、郊外ショッピングセンター、高層マンション、更に加えて高架鉄道と高速道路、東京タワーやスカイツリーなど、話題には事欠かない。

これらを精査して、残すべきもの、改善すべきもの、今後やっつけられないものなどに分類し、公的機関を含む地域の関係者間でコンセンサスを形成する必要がある。国立や谷中でのマンション問題、下北沢での小田急地下化に伴う跡地利用問題と旧都市計画による高架道路建設問題、日本橋での首都高速道路問題、郊外での空地・空き家問題、都心部でのシャッター通り問題など、どれひとつとっても放ってはおけない問題であり、都市環境デザイン会議がなすべきことは山積している。

■地域の都市デザイン、まちづくり等への現状の取り組みと活動概要

民間の猛烈なパワーにより大規模再開発が次々と進む東京をエリアに持つ関東ブロックであるが、メンバーの関心はより身近なところにある。無論、プロとして大規模再開発に参加する際には新進気鋭のデザイナーとして活躍する訳であるが、まちあるき、キャラバンなどでまちを歩き回る時、開発地区への関心は限定的であり、路地や市場やあれば、必ずそっちに行きたがる。まちづくりの到達点として何か別のものがあるのではないかと、と深いところで感じているのだと思う。

我々の仕事場を紹介するため、会員の事務所に若手を連れて押しかけるイベントを一通り行い、最近役所に押しかけて、学生ワークショップなどの形でまちづくり提案など行っている。こういった際にもやはり経済効率のよい開発などは出て来ない。業務として行うデザイン、審議会メンバーとしての判断など、実社会のオフィシャルな面とやや対比的に、JUDI という場所で皆自分に戻っているのではないだろうか。

■ブロックとして、JUDIとしての課題解決の方策と今後の活動ビジョン

若手から経験者まで、様々な分野の叡智を結び、実務者、行政、大学、地域の方々、異なる立場のメンバーが広く情報共有・発信すると共に、その繋がり、拡がりによって問題を解決し、次の時代の「都市環境デザイン」に生かしていく。

課題解決のため、1) 第一には、人材拡充、若い世代の会員を増やしていく。また、JUDI 会員である大学教授を動員して、学生会員を増やす。2) 第二に、情報発信、各種イベントに対し、インターネット、SNS等を介しての情報発信を行う。ニュースやweb配信を充実し活動を広めていく。3) 第三に研究発表、研究発表会やシンポジウムを積極的に開催し、新しい都市環境デザインについて提案、考え、方向を定める活動を行っていく。4) モニターメッセには国交省、自治体の景観担当、まちづくり担当、設計コンサルタントなどを積極的に招待し、広く情報交換の場として、新しい技術やアイデアの進化に繋がる機会を目指す。

運営委員

安部貞司 飯田とわ 稲田信之 小浪博英 紺野恭司 紺野朋子 作山 康 杉山朗子 須永淑子
高見公雄 土田 旭 服部圭郎 府川 充 屋代雅充 山川良子 峰岸久雄 須田武憲

関東ブロックの活動紹介

JUDI 関東セミナー

各地の自治体や大学等に伺い、毎回テーマを決めてまち歩きを行うとともに、参加学生を中心としたワークショップを行い、その場所のまちづくりについての提案や意見交換を行う「JUDI 関東セミナー」を開催しています。

第1回は、国土交通省都市局公園緑地景観課長の舟引氏の講演と景観まちづくりのあり方について意見交換が行われました。第2回は、吉祥寺駅周辺を対象にしたまち歩きを3回行い、最後に武蔵野市長を交えたシンポジウムを開催し、学生によるまちづくり提案、パネルディスカッション等を行いました。



キャラバン・シリーズ（まち歩き）

地元のまちづくりに詳しい人や、地元自治体の方などを案内人として、各地を訪れ「まち歩き」を行うのがキャラバン・シリーズです。

1999年の「関東新発見シリーズ『小江戸佐原』」を最初に、「谷中・千駄木・根津」、「山梨県・勝沼ぶどう郷の風景考」、「川崎臨海部（都市再生）バスツアー」などときにはバスツアーを交えて毎年数回実施しています。

また、毎年12月には「まち歩き+忘年会」として下町を中心としたまち歩きを行い、その後、忘年会で会員同士、地域の人などとの交流を図っています。



研究発表会・懇親会

2013年から、新たな取り組みとして「関東ブロック研究発表会」を開催しています。この発表会は、わが国の「都市環境デザイン」を幅広く議論する場として、また、会員の活動を情報発信していく場として活用するものです。

第1回目の発表会は「都市環境・その機能とデザイン」をテーマとし関東ブロックが協賛したセミナー等の発表も含め開催しました。

また、研究会やセミナー、まち歩きなどの後には、必ず懇親会を行い、参加者同士の交流、講師との交流の場として活用しています。



関東ブロック活動紹介

晴海通り（東京都中央区）

東京都のシンボルロード整備事業のモデル事業として、平成元年に施工された。晴海通りは江戸東京の中心である皇居から臨海副都心につづく歴史と未来の軸である。その中でもシンボリックな銀座地区の景観に合わせ、重厚でありながらシンプルな御影石舗装と縦格子を連想させる照明灯などのトータルデザインにより、空間のまとまりを感じさせる街路景観を創出した。



空間を特徴付ける列柱状の照明灯（夜景）



数寄屋橋交差点のシンボル照明灯（昼景）

豊洲（東京都江東区）

有楽町線豊洲駅周辺に広がる湾岸の新市街地である。IHIの造船所跡地開発で、関係団体による開発協議会が「豊洲2、3丁目地区まちづくりガイドライン（案）」を作成し、総合的な都市デザインに取り組んだものである。ららぽーと、芝浦工業大学などがあり、街全体を捉えたランドスケープデザイン、造船所跡地の工作機器などによるサルベージアートなども見られる。



晴海運河からの眺め



造船ドック跡とクレーン

夕留シオサイト：しゃれ街条例によるイタリア街（東京都港区）

しゃれた街並みづくり推進条例の景観形成重点地で、地域のまちづくり団体であるコムーネ夕留と街並みデザイナーである土田寛（東京電機大学）が地区内の建築から土木施設までを総合的に都市デザインマネジメントを行っている。地域の意思を専門家が具現化する都市空間の本来的なありべき姿を求めた形である。建築と街路デザインを総合化している。



立体交差する街路とトンネルの複合デザイン



建築外観のデザイン調整と公開空地から街路の側壁デザイン

ハモニカ横丁（東京都武蔵野市）

闇市から始まったという、この吉祥寺の駅前商店街は、細い路地が迷路のように入り組む中に100件ほどの小店舗が軒を連ねる。消防上の問題等を抱えつつも、新規出店の人気も高く、テナント料は決して安くはない。新しい店と古くから続く商店の雰囲気がいまって、独特の雰囲気を醸し出している。常に住みたい街ランキング上位に位置する吉祥寺の欠かせないスポットとなっている。



ハモニカ横丁入口



狭隘だが夜ともなると賑わう飲食店街

次代へと受け継がれる蔵造りの街並み（埼玉県川越市）

「小江戸川越」と呼ばれ、年間630万人もの観光客が訪れる川越。川越の最大の見どころは、荘厳な蔵造りの街並みであるが、表通りから一歩奥に入った路地には、菓子屋横丁や緑溢れる寺社、料亭などが点在し、これに日常的な営みや伝統行事等のにぎわいの景が加わり、街並みに奥行きと活気を与えている。歴史的風趣を大切にしながらも、常に進化を続ける街である。



蔵造りの街並み（一番街商店街）



菓子屋横丁

旧中山道 奈良井宿（長野県塩尻市）

重要伝統的建造物群保存地区に指定されている旧中山道の奈良井宿は、平成18年から平成20年にかけて道路の美装化、水場の修復工事が行なわれ、江戸時代の土舗装に近いイメージに生まれ変わった。美装化されたことに加え、NHKのドラマのロケ地になったこともあり、今では平日も観光バスが来て賑わっている。



美装化された旧中山道



水場裏の広場

関東ブロック活動紹介

幕張ベイタウン（千葉県千葉市）

新都心の一環として開発された「幕張ベイタウン」は街区を囲む沿道型建築が主役で「住宅で都市をつくる」ことを目標にしている。都市デザインガイドラインに基づく計画・設計調整は、四半世紀に及び、学校建築も話題を集めた。2015年には南端の超高層ができて9,400戸の住宅全てが完成する。



完成した中層街区



中層街区の街並み

馬車道（神奈川県横浜市）

'70年代横浜市の6大事業の一つに都心商業軸の整備があり、'73年市の「モデル化商店街」第1号。地域・行政・設計者協働の好例。「街づくり憲章」を謳い、「街づくり協定」を締結、交通規制、壁面後退、歩道拡幅、街具、色彩調整等。2003年完成の第2期では「ガーデンロード馬車道」[old & new]をコンセプトに、再歩道拡幅、庭園風植栽、煉瓦舗装、瓦斯等整備等を行った。



イセザキモール（神奈川県横浜市）

伊勢佐木町は馬車道と共に、都心商業軸を形成する最も伝統のある総延長1.5kmの商店街。1978年にアーケードを撤去し、潮風の抜ける我国初の本格フルモールとしてオープン。共同溝を設け電柱撤去、各種ケーブルを地中化。タイル類で高級感のある路面舗装、豊かな街路樹、デザインされたSF、ゲートやモニュメント、彫刻を設置。フランス製日除けで統一感と洗練を演出。



アーケードを撤去して街路樹を植栽



ベンチやモニュメントを配置

開港広場（神奈川県横浜市）

1853年ペリー来航、翌年、この地で日米和親条約が締結、1859年に開港された。それを記念する広場。中心に西洋文明の迸りを表徴する「開港の泉」があり、波模様の床、時を表す12本の鏡が街の表情を映し出す。姉妹都市・姉妹港のエンブレムが噴水を横浜と見立て1/280万（建設当時の人口）の距離で埋められ、物語性の秘められたデザイン。ここへ来ると初めて海を感じるという。



開港の泉



開港広場全景

吉田橋と馬車道広場（神奈川県横浜市）

吉田橋袂に関門があり、橋を渡ると関内になる。開港当時は木製の橋。明治2年(1843年)英国人灯台技師プラントン設計の鉄のトラス橋が架けられ「かねの橋」と呼ばれていた。その後市電が走るためコンクリート橋に代わっていたが、高速道路の工事に伴い鉄の高欄に復元した。橋詰広場であり、乗合馬車の発着点が馬車道広場。歩道を拡幅して広場がデザインされた。



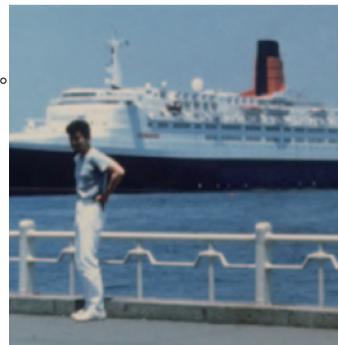
開港当時の吉田橋と現在の吉田橋



馬車道広場

山下公園と山下公園通り（神奈川県横浜市）

関東大震災の瓦礫で埋立てた公園。1930年開園。臨海公園として市民の憩いの場である。山下公園通りは銀杏並木でその名を馳せ、南側歩道沿いの敷地は歩行空間を広げるため3mセットバックし歩道と同じ石畳で心地よい散策路。旧市街というdistrictの中に、臨海部のedgeを形成し、緑のopen spaceというimageの高いエリア。周辺街区のデザインガイドラインがある。



山下公園



山下公園通り